

[成果情報名] ICT を用いた檻や罠の遠隔監視操作システム（クラウドまるみえホカクン）の地域への集中配備による捕獲と被害軽減の実証

[要約] クラウドまるみえホカクンを広域に 18 基設置した実証地域で、シカ 200 頭、サル 5 群で 430 頭の捕獲を達成した。シカは防護柵と併用する集落で大幅に被害を軽減できる。サルは群れ単位の個体数管理が実現でき、被害対策と併用することで被害発生集落を削減できる。

[キーワード] ICT、クラウド、捕獲、被害、軽減

[担当] 三重県農業研究所 地域連携研究課

[分類] 普及

[背景・ねらい]

近年、イノシシ、シカは防護柵と併用して高密度地域での集中的な捕獲が、サルについては、追い払いなどの被害対策を進めつつ、100 頭を越える様な多頭群を群れ単位で個体数コントロールすることが重要となってきた。そこで、本研究では檻や罠を遠隔監視操作し、それらの情報をクラウド上で管理、共有が可能な「ICT による檻や罠の遠隔監視操作システム（クラウドまるみえホカクン）」を地域に配備した。シカの集中的な捕獲とサルの群れ単位の管理が可能となり、被害対策と併用することで、被害が軽減できることを実証する。

[成果の内容・特徴]

1. クラウドまるみえホカクンを開発し、大型檻と共に伊賀市の大山田地区、伊賀地区、などに18基を配備した結果、シカは10km×15kmの捕獲が不足するエリアで、研究期間を通じ捕獲不足数を超える200頭程度の捕獲を実施した(図1)。防護柵設置が進んだ集落の侵入個体を集中的に捕獲する集落では、大幅な被害軽減ができる(図2)。
2. サルは5群で440頭を捕獲し、行き場のない群れは全頭捕獲し、追い払いなどの被害対策と併用することで、集落への依存度を低下し得る群れは、40頭程度の個体数に削減した(図3)。サルの群れ管理が進む集落では、被害を大幅に低減できる(図4)。

[成果の活用面・留意点]

1. 導入にあたっては、効果的な防護柵や追い払いなどの地域での被害対策を進めつつ、併行的に捕獲を進められる計画の策定と、それらを実施可能な体制構築が重要である。
2. 頭数や密度などの科学的な調査に基づき、捕獲の計画を策定し、技術を導入する必要がある。
3. 獣害対策実施隊などの管理を専任で担える組織や体制が整備されている自治体での導入が望ましい。
4. 適正な技術導入により、他地域でも同様の効果発揮が期待できる。

[具体的データ]

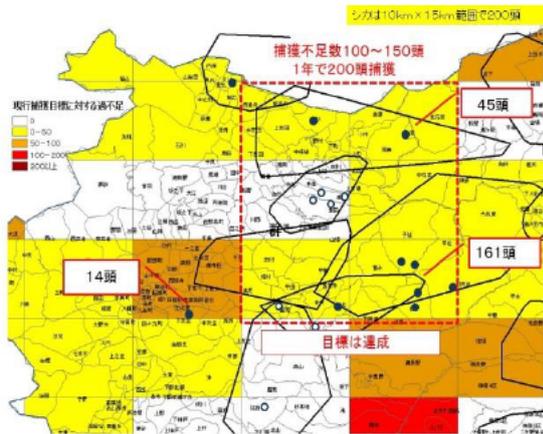


図1 伊賀市全域でのシカ捕獲実績

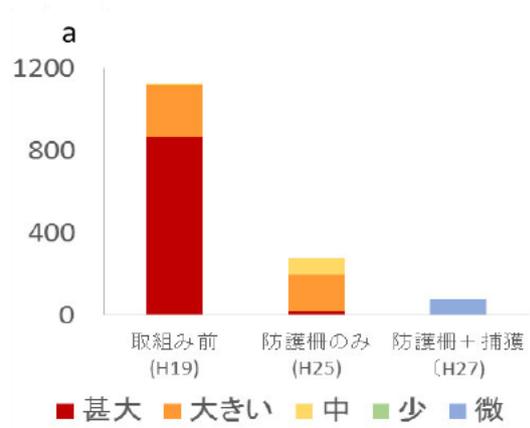


図2 防護柵と合わせた捕獲実践集落によるシカ被害面積変化 (全戸アンケート)

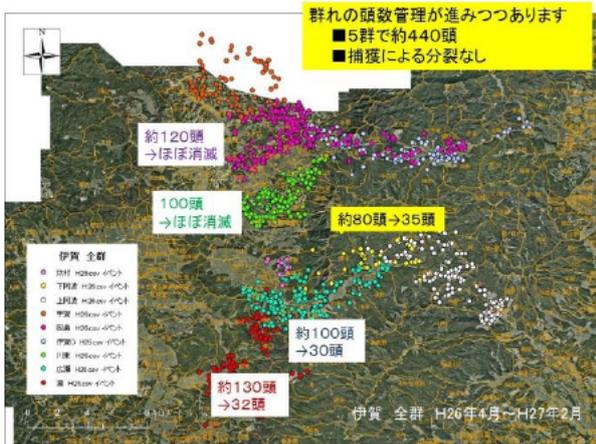


図3 伊賀市全域でのサルの個体群管理結果

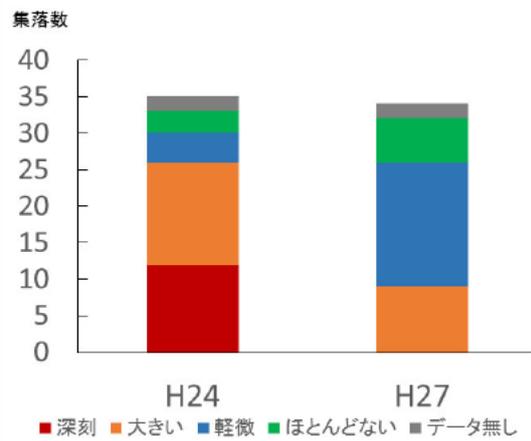


図4 実証地域 35 集落の被害変化

(山端 直人)

[その他]

研究課題名：ICT を用いたシカ、イノシシ、サルの防除、捕獲、処理一貫体系技術の実証

予算区分：国費

研究期間：H26～H27 年度

研究担当者：山端直人、鬼頭敦史、飯場聡子、田中一久

発表論文等：特許出願中